

Let's build up our skills

第7回 日本耳介再建学会

2024.11.1 fri-2 sat

会場 札幌医科大学医学部

会長 札幌医科大学医学部 形成外科学講座 教授 四ッ柳 高敏



プログラム・抄録集

第7回 日本耳介再建学会 開催報告

目次

- 1、 学会日程表
 - 2、 症例検討会プログラム
 - 3、 参加者名簿
 - 4、 Photo コーナー（学会の様子）
 - 5、 参加者の感想
 - 6、 主催者から
-

1、学会日程表

第1日目 11月1日（金曜日）

13:00～16:00	ライブサージャリー 「小耳症（small concha type）肋軟骨移植術」 場所：記念ホール2階 大ホール ⇄ 附属病院手術室 会場モデレーター：静岡県立こども病院 加持 秀明 執刀医：四ッ柳 高敏
16:30～17:00	意見交換会 場所：記念ホール2階 大ホール 司会：札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
17:00～17:15	ショートレクチャー 「肋軟骨採取のコツ」 場所：記念ホール2階 大ホール 演者：札幌医科大学形成外科 北田 文華
18:30～	総合懇親会

第2日目 11月2日（土曜日）

8:30～12:10	症例検討会 場所：記念ホール2階 大ホール
12:15～13:15	ランチョンセミナー 「小耳症の治療に対する変遷と今後の展望」 場所：記念ホール2階 大ホール 演者：札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
13:30～15:30	ハンズオンセミナー（※希望者のみ） 「人参を用いた小耳症肋軟骨フレームカービング」 場所：記念ホール1階 会議室A

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶

札幌医科大学形成外科 教授 四ッ柳 高敏

演題第1部

座長 佐々木 薫（筑波大学医学医療系形成外科）

耳介挙上術後、初回 tie over 交換時期の植皮生着へ影響について

○妹尾 貴矢（岡山大学病院 形成外科）

シリコンフレームが露出した小耳症の1例

○三浦 孝行，鳥谷部 荘八，青木 浩平，竹澤 悠介（仙台医療センター 形成外科手外科）

最近の当院での小耳症手術

○小柳 俊彰，鈴木 翔太郎，森田 愛，大山 拓人，高木 誠司（福岡大学 形成外科）

両側 hemifacial microsomia に伴う片側小耳症に関する症例相談

○玉田 一敬（地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター 形成外科）

switch back 術後の Tanzer 分類Ⅲ群絞扼耳に対して、今後の方針相談

○服部 咲江，加持 秀明（静岡県立こども病院 形成外科）

休憩(約5分)

演題第2部

座長 鳥谷部 荘八（仙台医療センター 形成外科手外科）

若年両側耳垂ピアスケロイドの治療経験 -再発も視野に入れた当院での治療アルゴリズム-

○蔡 顯真¹，福村 崇¹，元村 尚嗣²（南大阪病院 形成外科¹，大阪公立大学大学院医学研究科 形成外科²）

初めての耳介形成 ～埋没耳介を利用した耳垂形成～

○佐々木 淑恵（群馬県立小児医療センター 形成外科）

ハイドロコロイドドレッシング材を用いて埋没耳の保存療法後に再発し再度保存療法施行中の1例

○菅井 かれん^{1,2}, 江藤 綾乃³, 佐々木 薫¹ (筑波大学医学医療系形成外科¹, 茨城県立中央病院², 水戸協同病院³)

当院における小耳症治療の現状 2024

○石垣 達也 (千葉県こども病院 形成外科)

休憩(約5分)

演題第3部

座長 妹尾 貴矢 (岡山大学病院 形成外科)

遊離皮弁を用いた側頭部再建術後の耳介下垂に対し有茎骨膜弁を用いて耳介の吊り上げ術を行った2例

○佐々木 薫, 齋藤 かれん, 江藤 綾乃, 大島 純弥, 相原 有希子, 渋谷 陽一郎, 関堂 充 (筑波大学医学医療系形成外科)

神経線維腫症 I 型の耳介変形

○戸澤 麻美 (愛媛大学医学部附属病院形成外科)

耳介部動静脈奇形切除後の耳介再建について

○松谷 瞳, 岩科 裕己, 尾崎 峰 (杏林大学 医学部 形成外科学教室)

事前採取した型から作製した3次元テンプレートを使用して再建を行った耳介有棘細胞癌の一例

○笠井 昭吾, 谷 裕美子 (済生会宇都宮病院 形成外科)

耳介位置異常を伴う小耳症2症例の経過報告

○吉田 聖, 押領司 親史, 門田 英輝 (九州大学病院形成外科)

写真撮影(約5分)

3、参加者名簿

全国・海外よりお越しいただいた先生方 38名
札幌医科大学事務局(医師、事務) 15名

氏名 *50音順 敬称略	所属
安里 令子	琉球大学病院
池邊 翔平	静岡県立こども病院
石垣 達也	千葉県こども病院
入江 稜子	大阪市立総合医療センター
上原 拓也	前橋赤十字病院
江藤 綾乃	水戸協同病院
榎本 慧	東京都立小児総合医療センター
大杉 育子	川崎医科大学
押領司 親史	九州大学病院
小野寺 文	岩手医科大学
笠井 昭吾	済生会宇都宮病院
金山 千恵	東京都立小児総合医療センター
加持 秀明	静岡県立こども病院
久保村 憲	日本医科大学
古賀 康史	前橋赤十字病院
小柳 俊彰	福岡大学
蔡 顯真	南大阪病院
櫻庭 実	岩手医科大学
佐々木 薫	筑波大学
佐々木 淑恵	群馬県立小児医療センター
菅井 かれん	筑波大学
鈴木 琢也	和歌山県立医科大学
妹尾 貴矢	岡山大学
玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
寺邑 千尋	武蔵野赤十字病院
寺本 瑞生	公立豊岡病院
戸澤 麻美	愛媛大学
富岡 容子	東京大学
鳥谷部 荘八	仙台医療センター
中川 嗣文	札幌孝仁会記念病院
服部 咲江	静岡県立こども病院
松谷 瞳	杏林大学

三浦 孝行	仙台医療センター
三橋 伸行	岩手医科大学
山中 浩気	京都大学
山本 晃成	横須賀市立市民病院
吉田 聖	九州大学病院
Maria Kartashova	Moscow State Budgetary Hospital
四ッ柳 高敏	札幌医科大学(事務局)
山下 建	札幌医科大学(事務局)
加藤 慎二	札幌医科大学(事務局)
北田 文華	札幌医科大学(事務局)
宮林 亜沙子	札幌医科大学(事務局)
原田 二郎	札幌医科大学(事務局)
上田 直弘	札幌医科大学(事務局)
相神 なほ	札幌医科大学(事務局)
高田 明日香	札幌医科大学(事務局)
中川 瑞貴	札幌医科大学(事務局)
松本 俊太	札幌医科大学(事務局)
山本 夏子	札幌医科大学(事務局)
谷向 慎矢	札幌東徳洲会病院(事務局)
事務 2 名	札幌医科大学(事務局)



2 日目 症例検討会にて集合写真

4、Photo コーナー（学会の様子）

■1日目：ライブサージャリー「小耳症（small concha type）肋軟骨移植術」

手術室と会場を「ライブカメラの映像」と「音声」でつないだライブサージャリー。会場内の大画面スクリーンと6台のモニターから映像が配信され、映像を見ながら執刀医とのディスカッションが行えます。

今回はsmall concha type の肋軟骨移植術を実施しました。ご参加の先生方に配布しましたレジюмеでは「small concha type」の定義について、また遺残耳甲介の利用やフレームの作り方など現時点で四ッ柳医師が考える「small concha type」の術式の目安を提示し、本症例での手術の手順やポイントについてご案内しました。

ライブサージャリーでは肋軟骨フレームの作り方や移植が映像の中心となりますが、会場モデレーターの加持秀明先生からのご提案により、肋軟骨フレーム作成に入るまでの間、急遽、肋軟骨採取の映像を配信し、採取時のポイント等について札幌医科大学 形成外科 原田二郎医師がレクチャーしました。

「肋軟骨は何本採っているか？」「テンプレートは患者さんによってカスタマイズしたものか？」「耳垂の位置決めの方は？」「ワイヤーからナイロン糸に変えての問題点はあるか？」「余った肋軟骨はすべてバンキングしているか？粉骨してバンキングしているのか？」などポイントを抑えながらたくさんのご質問をいただき、モデレーターの加持先生には会場を大変盛り上げていただきました。ありがとうございました！



参加された先生方はメモを取ったり、写真を撮影したり、熱心にご覧になっています

■1日目：意見交換会

本学会は耳介の治療に本気で取り組んでいる人、取り組もうとしている人による相談会・意見交換、勉強会の場であり、日本の耳介再建のレベルを底上げすることを目的としています。毎年恒例ではありますが、まずは初めてご参加いただいた方々に向け、このような本学会の趣旨やシステムについて会長の四ッ柳より説明をしました。

次回の学会の内容や構成への希望を後日アンケートでお伺いし、いただいたご意見・ご希望をもとに第8回目をより有意義な学会にすべく企画していくことが話されました。

また新たな試みとして、本学会から耳介の教科書を発行したいと考えていること、発行が現実化した際にはぜひご協力をお願いしたいと、話がありました。

なお、第8回目の開催は2025年11月7日(金)～8日(土)を第1希望、11月15日(金)～16日(土)を第2希望とし、参加者の皆様のご意見をお聞きしながら最終的に決定することにしました。第8回目も皆さまのご参加をお待ちしております。



会長 四ッ柳による説明

■1日目：ショートレクチャー 「肋軟骨採取のコツ」

毎年ご好評をいただいている『小耳症における肋軟骨採取』の方法やコツについて、札幌医科大学 形成外科の北田文華医師から講演がありました。

肋軟骨の解剖的特徴や小耳症患者と肋軟骨形態異常の関係性について、また肋軟骨採取部の鎮痛方法、採取の難所となる2つのポイントや切開デザイン・剥離・リークテスト・縫合等の採取の手順を実際の動画を用いて詳しく説明しました。



肋軟骨採取について説明をしている北田文華医師



■ 学会場でのひとこま ～ 今年は学会ロゴ入りキャンディ登場 ～

北海道といえば、お土産として何を買おうか迷ってしまうくらい銘菓が揃っています。毎年、本学会の会場入口には北海道を代表する銘菓を置き、参加者の皆さんに楽しんでいただいています。事務局 山下の提案により、昨年は学会ロゴ入りのチロルチョコをご用意しましたが、今年はキャンディをご用意しました。北海道銘菓もキャンディも大好評でした。



北海道人も大好きな魅力的なお菓子をラインナップしました



箱の中身は、いちごミルクのキャンディでした！

■2日目：症例検討会

症例検討会は日本耳介再建学会の目玉の一つです。

今回も治療に難渋している相談症例が数多く発表され、今後の改善点や治療計画についての意見交換がなされました。また、各先生方が同様のポイントで苦勞されていることが多く、各医療機関での対応についてもディスカッションがなされました。

本学会への参加や症例相談の発表により、先生方の治療結果が格段に上がっていらっしゃるのことがわかり、本学会としても大変嬉しく思います。

今回はたくさんの演題をご発表いただきまして、ありがとうございました。

座長の鳥谷部莊八先生、佐々木薫先生、妹尾貴矢先生ありがとうございました。



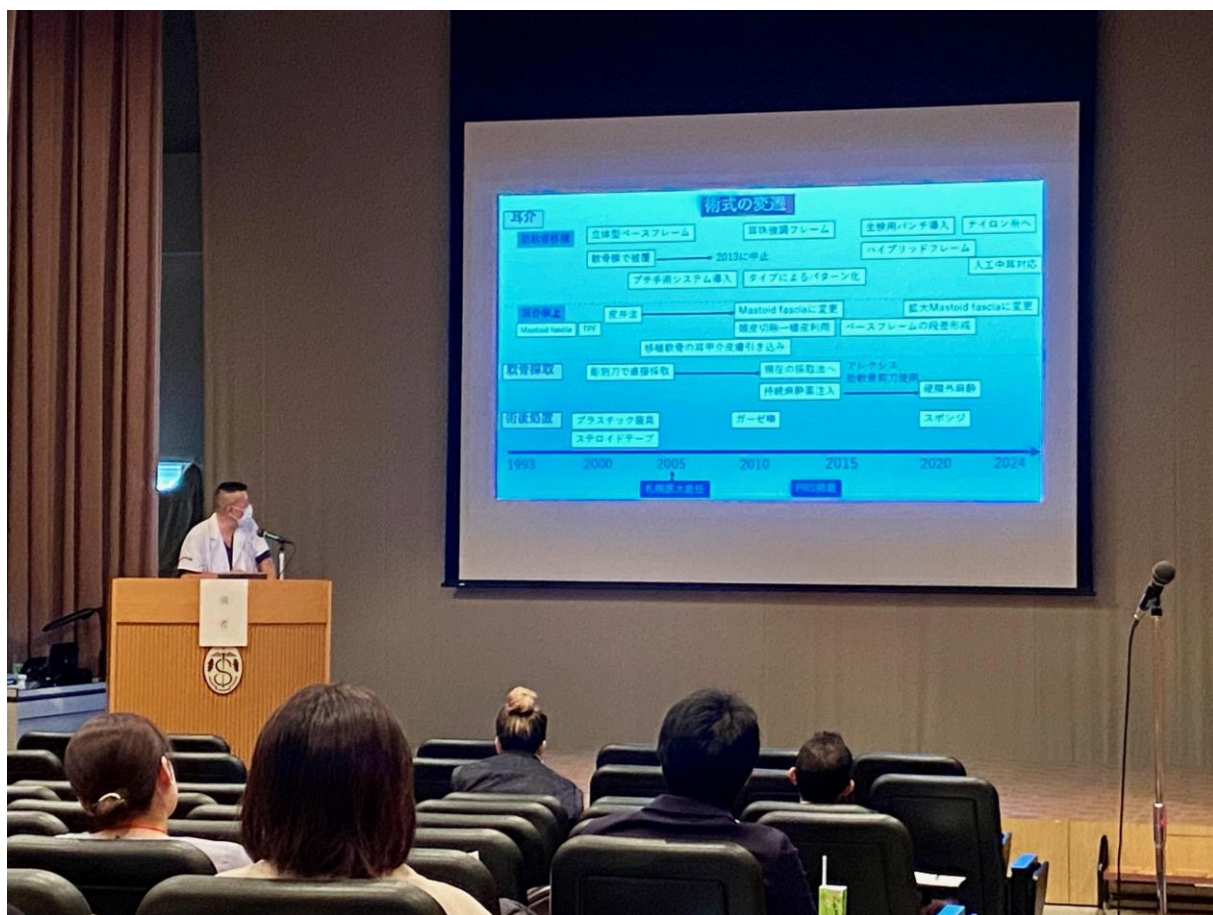
症例相談に対するディスカッション

■2日目：ランチョンセミナー

「小耳症の治療に対する変遷と今後の展望」

四ッ柳医師がこれまで行ってきた術式の変遷を良い点・悪い点を交えて話をしてほしいと、昨年度の参加者アンケートにてご要望をいただいておりますので、それに応える形で今回の講演を実施しました。まずは1920年 Gillies 先生から始まり現在に至るまでの耳介再建の術式の世界的な変遷を時系列にて説明し、それを踏まえたうえで四ッ柳医師が実施してきた細かな改良点の積み重ねとなる術式変遷を説明しました。また、今後はイヤホンや補聴器等、聴力を意識した耳介再建を考慮していくべきであり、耳鼻科とコンセンサスを取りながら進めていくべきであることをお話ししました。

また、今後の展望として、再生医療の流れとその問題点、そして現在四ッ柳医師が中心となり進めている生体内再生医療による耳介形成の手術方法と進捗についてお話ししました。



術式の変遷をお話する四ッ柳医師

終盤10分間（共催） リオン株式会社 「軟骨伝導補聴器の製品説明」

形成外科医も聴力のことを理解して患者さんを診察する必要がありますので、昨年度に引き続きリオン株式会社様による企業展示を実施しました。「軟骨伝導補聴器」の仕組みや視聴方法といった製品概要、取り扱い施設基準などについてお話しいただきました。その後、参加された先生方には、実際に補聴器を体験していただきました。



リオン株式会社様から「軟骨伝導補聴器」の製品説明



補聴器を体験されている参加者の先生方

■2日目：ハンズオンセミナー

「人参を用いた小耳症肋軟骨フレームカービング」

毎年恒例となりました肋軟骨フレームカービング。人参を使用し、彫刻刀で肋軟骨フレームを作製します。肋軟骨フレームが出来上がったあとは陰圧をかけて、よりリアルに凹凸の出方を感じていただきます。

今年で7回目を迎え、回を追うごとに先生方のフレーム作成のレベルがアップしています。

また、より肋軟骨に近い感触を味わえるのではないかと昨年から人参に代わる新素材（片栗粉とシリコンシーラントを混合した素材）をご提案いただいている三橋伸行先生、ありがとうございました。近い将来、新素材でのフレームカービングが実現しそうですね。



お一人ずつフレームを見て、良い点・改善点をレクチャーします



肋軟骨フレームに陰圧をかけていきます



毎年恒例の記念撮影にご協力ありがとうございます！（左）佐々木先生 （右）妹尾先生



（左）山中先生 （右）三橋先生 完成品とともに。



新素材のご提案を三橋先生からいただきました



実際に新素材で肋軟骨フレームを作成



ハイレベルな先生方の作品です

5、参加者の感想

1. 杏林大学 形成外科 松谷 瞳先生より

私は今回で4回目の参加となりました。初めて参加した2019年の第3回研究会の時はまだ後期研修医で、小耳症の”いろは”も分かっておらず、ライブサージャリーではメモが追いつかない状態でした。しかし結果として、非常に洗練された手技や考え方を最初に学べたことが、専門医取得後に小耳症診療に携わりはじめた際に大きく役立つこととなりました。2022年には執刀を行う立場となり、札幌医科大学の診療を1週間見学する機会も得て、小耳症の奥深さを肌身で感じるようになりました。毎年この学会で刺激を得ることが楽しみで、今回も2日間フル参加させていただきました。

1日目

今回のライブサージャリーは small concha type の症例でした。術中に耳甲介の広がりなどを見ながらデザインを調整していく流れは、ライブだからこそ学べる内容だと感じました。耳珠～外耳道の滑らかな陥凹の再現、元の耳介軟骨を用いた自然な対耳珠の形成など、細やかな部分まで tips がちりばめられていて、新たな学びとなりました。肋軟骨採取は無駄のない手技で、何度見ても勉強になっています。自大学の若い先生にこの手技を伝えられるよう、自身も研鑽を積んでいく必要があると改めて感じました。

その後の懇親会1次会はランダムに座席が割り振られており、周囲の先生方とも話しやすい雰囲気でした。学年が近く、似た分野を専門としている先生方と新しく知り合うことができ、貴重な機会となりました。10年以上ぶり(私が学生の時以来)にお会いした先生もいっしょり、形成外科医としての姿をお見せできて感慨深かったです。2次会では、札幌医科大学のレジデントの先生方ともお話しでき、医局の温かい空気を垣間見ることができました。2次会後は、日付が変わるころにジンギスカンを食べて最後まで札幌の食を楽しみました。

2日目

一般的な学会ではチャンピオン症例が提示されがちですが、本学会の症例検討会は、難度の高い症例を提示して意見を出し合える貴重な機会となっています。今回も鰓弓症候群に伴う小耳症や他院術後症例など、対応の難しい症例を多数見ることができ、自分の外来に同様の患者さんが受診されたときを想定しながら発表を聞くことができました。また本検討会のもう1つの特徴として、小耳症の治療に取り組み始めた先生方が、四ッ柳法を用いた自身の経験を報告されていて励みになりました。今回私は耳介再建の内容で発表をさせていただきましたが、いずれ小耳症の内容でも発表できるよう今後も診療にあたりたいと思います。ランチョンセミナーでは小耳症治療のこれまでの歴史と、今後の新しい治療選択肢となりうる再生医療について、四ッ柳先生にご講演いただきました。今後の報告を楽しみにさせていただきます。

午後からのハンズオンセミナーでは、毎年恒例の人参を使った小耳症肋軟骨フレーム作成を行いました。この感想文を書くにあたって、今まで自分が作った4回の作品写真を比べてみました。最初はとりあえず型どおりに人参を切って重ねているだけでしたが、少しずつ角・継ぎ目の処理や立体構造への意識付けができていくように感じました。運針が年々スムーズになったこともあり、フレームが完成した時間も少しずつ早くなっていました。とは言うものの今回も、対耳輪の厚みやベー

スプレームの重なりが不十分であったり、耳珠・対耳珠の細かな立体構造を再現するためにもう一工夫が必要であったり、と改善点を四ッ柳先生から直々にご指摘いただきました。この経験を今後の診療に活かし、来年度はより特徴を捉えて作成できるようになりたいと思います。

今年も小耳症にどっぷり浸かる濃密な2日間を過ごすことができました。四ッ柳先生をはじめ札幌医科大学形成外科学講座および事務局の皆さまには、毎年多大なご準備と学会運営をいただき感謝申し上げます。今回は雪が降らず札幌内の移動は楽でしたが、帰りは台風の影響により新千歳空港で待機するという若干季節外れのイベントもありました。また来年以降も参加させていただきたいと思います。



症例検討会で発表をされている松谷先生



肋軟骨フレームの完成品とともに

2. 琉球大学病院 形成外科 安里 令子先生より

昨年はじめて参加させていただき、今回2回目の参加です。小耳症手術執刀経験はないのですがこれから取り組んでいきたいと考えております。これからやっていきたい人の立場から学会に参加しての感想を書かせていただけたらと思います。

初日、学会のスタートであるライブサージャリーでは小耳甲介型の手術を見させていただきました。小耳症の手術は、遺残耳介の形態にバリエーションが多くどこまで使うか、どこまで剥離するか等、組織の取り扱いが難しいと感じており、今回はそういった点を中心に見たいと思ってきました。意図を解説しながらデザインしてくださり、また、最初で決め切らず、状態を見ながらやっていく行程を見ることができ、非常に勉強になりました。多くのモニターが設置されており、どの席からでもよく見えるように会場が設営されていました。また、モデレーターの加持先生は若手が聞きにくいけれど疑問に思っているであろうことを確認と言う形で聞いてくださり、また、肋軟骨側と頭側とを行き来しながら、どちらもポイントが見られるように気を配っていただき、良い環境でみることができました。出来上がった耳介は綺麗で、手術時間も短く無駄がない様子を、実感を持って見させていただきました。

北田先生の肋軟骨採取レクチャーは以前にも拝見し、手技のポイントがクリアになったと感じたことを記憶しております、今回は、自身で何度か軟骨採取を経験した上で再度聞くことができ、また勉強になりました。

懇親会では、多くの先生方とお話しさせていただくことができました。笑いが尽きず、北海道らしいお食事も美味しく、とても楽しく過ごさせていただきました。経験の多い先生方がどのようにスキルアップされてきたのかということも色々教えていただけて嬉しかったです。

2日目は症例検討会から始まりましたが、新しい取り組みや上手くいった症例だけでなく、上手くいかなかった症例や困っている、方針を迷っている現在進行形の症例提示が多いのが特徴的でした。学会でこれほどまでに「本音」の症例検討会というのはこれまでに経験がなく、相談できる場があるという心強さを感じました。

ランチョンセミナーでは小耳症治療の歴史、四ッ柳先生の術式の変遷、現在開発を進めていらっしゃる生体内再生医療について学びました。工夫が重ねられて洗練されてきた術式であるということに改めて認識し、こうして洗練されてきた術式、技術を学ぶことができるのはありがたいことだと思いました。

干し人参を用いて軟骨フレームワークを作成するハンズオンセミナーは昨年も参加させていただきました。昨年は組み上げるのでいっぱいでしたが、今回は2回目ということで確認したいポイントをもって参加することができました。四ッ柳先生が実際に作られたフレームワークをみて、また、自分で作成したフレームワークを見ていただいて改良点が明確になりました。

全体を通して、会長である四ッ柳先生の日本の耳介再建のレベルアップを図りたいという想いと参加している先生方の治療に取り組む想いを感じられる熱い学会でした。まだまだこれからやっていくという段階ですが、精進したいと思います。学会の皆様、どうぞご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、四ッ柳先生、札幌医科大学形成外科のみなさま、本当にホスピタリティあふれる学会で居心地良く過ごさせていただきました。心より感謝申し上げます。またお邪魔させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



ハンズオンセミナーに参加された安里先生

6、主催者から

札幌医科大学 形成外科 四ッ柳高敏

早7回目となった本学会ですが、年々少しずつ新しく参加される方が増え、本学会継続の手ごたえを感じながら準備を進めました。本会を楽しみにして常連としてご参加くださる先生と新しく参加された先生がちょうどバランスよく交流しているこの会の雰囲気は、なかなか他の学会では得られない心地よさではないかと思っております。会の趣旨として、ざっくばらんな相談や意見交換の場であることを維持するためには手作り感のある学会であることが重要だと思っており、今後さらに人数が増えたとしてもその方向性は維持していきたいと思っております。

今回も山下事務局長、秘書の菊地さんを中心として教室員全員で入念に準備を進めてくれたおかげで、また、参加くださった先生たちも非常に協力的に対応してくださったおかげで、つつがなく全イベントを終わることができました。改めて感謝申し上げます。

初日のライブサージャリーに関しては、昨年のアンケートで small concha type の手術を見たいというご意見があり、また、ちょうどこの時期に手術を組めそうな患者さんがいたことから small concha type の小耳症で行ないました。手術は非常に順調に終わり、最も難しい肋軟骨フレームと遺残軟骨の連結が悩まずピタッとはまったので、手術をしている側としては有難い限りでした。軟骨採取を先に初めてもらい、少し遅れて耳をスタートしたり、質問等に対して随時回答しながらの進行でしたが、2時間40分で終了できました。私が苦勞したり困っている部分を見たいという希望もあるようですが、実は前日にやった肋軟骨移植では非常に苦勞が多く4時間近くかかっております。

毎年何の手術を組むか悩むのですが、昨年行った low hairline の症例はベテランの先生にとっては意味が大きいと思うものの、経験の浅い先生にとっては少々ハードルが高く、リアクションが弱い印象でしたし、そうすると再再建はますますその傾向が強くなることも想像に難くないです。また耳介挙上や小耳症以外の耳介変形の手術等だとあっという間に終わってしまうので、物足りないだろうなと思ってしまう。特に新しく参加された先生は、やはり小耳症の肋軟骨移植が最も見たいところかと思うので、lobule、concha、small concha あたりの肋軟骨移植のローテーションが無難ではないかとは思っています。またアンケートの希望を見ながら来年の手術を検討したいと思います。

懇親会は非常にアットホームな感じで皆さん楽しそうに過ごしていました。昨年みぞれの中、足を濡らして移動したことを考えると、今年は寒いながらもまだ良い状況であったと思います。

翌日は症例検討会が8:30スタートだったので、我々は7時から病棟処置をしてから会場入りしました。症例検討会は皆さん困っている症例、悩んでいる症例の相談演題が多かったのですが、非常に難しい症例が多く、やはりこういう場が必要だなと改めて感じました。また先生方の個々の実力がアップしている様子を直接スライドで見せていただいたことも大きな収穫でした。一方で、やはり若い先生たちはなかなか質問しづらいようで意見が少なかったのも、基本的な質問で構わないのでどんどん手を挙げられる雰囲気づくりを検討する必要があると感じました。

ランチョンは時間の関係で少々はしょってお話したので、理解しにくい部分があったかもしれません。リオンさんには昨年に続き軟骨伝導補聴器の試聴の機会を作ってください、皆さん熱心に確認していました。これからは、形成外科医も聴力のことを理解して患者さんを診察する必要性が高まりますので、このような機会をまた作れればと思っております。

ハンズオンセミナーは、最初の頃はなかなか完成まで行き着かなかった先生もいらしたのですが、今回は皆さんしっかりと耳を完成させており、耳のプロポーションも良く、細部まで理解して作られている印象でした。耳の立体感を自分のものにできればおのずと技術は上がって来るので、たとえ症例が少なくともこれを機会に練習いただければ、いざという時に本領を発揮できるようになると思っております。

最後になりますが、来年第8回耳介再建外科学会にてまたお会いできることを楽しみに準備を進めてまいりますので、次回もよろしくお願いいたします。